みんなの広場

ところざわまつり

◀▼33万人の方が訪れた「ところざわまつり」。パレードに始まり山車の曳き回しまで大勢の人でにぎわいました。
10月12日㈪／所沢中央地区
（撮影／市民カメラマン・塩野入好文・岩田洋一・西田憲正・木村清貴）

みんなのギャラリー

第54回所沢市文化祭

第54回所沢市文化祭が8月から市民の皆さんの芸術・文化活動の集大成として開催されています。今後の予定は市ホームページ（「所沢市文化祭」で検索）でご覧になれます。

▲「第30回所沢市民音楽祭」の「ポップス＆ジャズフェスティバル」では、ジャズ、ハワイアン、ポップス、GSなどの8グループが日ごろの練習の成果を発揮し、盛り上がった音楽祭になりました。
10月13日㈷／ミューズ・中ホール
（撮影／市民カメラマン・西山元博）

◀▲「第29回所沢市邦楽芸能大会」では、4歳のかわいい舞姿から幅広い年齢による伝統芸能が披露されました。
9月20日㈯／ミューズ・中ホール
（撮影／市民カメラマン・池田敏明）

みんなで楽しくエコ活動！

環境レポーター"エコちゃん"が行く

「エコロボランティア」の皆さんに聞きました

◆どんな活動をしているの？

ごみ減量や環境に関する展示や、「もったいない」気持ちを暮らしに活かすさまざまなリサイクル講習会を市と協働で開催し、物を使いきる知恵を提供しています。

また、市が行っている古着・古布回収（ファイバーリサイクル）の中で再利用できる古着等の整理を東所沢エコステーションで行い、リサイクルふれあい館で展示しています。

▲もったいない市の様子

◆なん人くらいで活動しているの？

約100人の市民ボランティアが交代で活動しています。

◆どんな講習会を開催しているの？

- 裂き布ぞうり…不用になった布を使いぞうりを作ります。
- 新聞ブローチ…色刷り新聞紙からブローチを作ります。
- リサイクル小物…不用になった布で、携帯ケースやコサージュを作ります。
- 裂き織り…不用になった布を裂いて、コースターやランチョンマットを作ります。

▲裂き布ぞうり

▲リサイクル講習会の様子

◆昨年度の活動は？

- 5月…エコロまつりで「リサイクル講習会」などの開催
- 10月…市民フェスティバルで「もったいない市」の開催
- 11月…「和服のもったいない市」や「陶磁器市」の開催
- 3月…生涯学習フェスティバルで「リサイクル講習会」の開催

問い合わせ　リサイクルふれあい館（☎2994-5374・FAX2994-1118）

皆さんからの写真や投稿をお待ちしています！

▶「みんなの広場」では、エッセイおよび市内で撮影した写真やイラストなどを募集▶写真には撮影日・場所・コメント（約60字）を明記▶エッセイはテーマにそって300字以内▶次のテーマは『サンタクロース』▶文章は添削あり▶締め切りは**11月6日㈭必着**▶掲載者には記念品を進呈◎いずれも住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ〒359-8501並木1-1-1所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係へ郵送またはEメール（アドレスhiroba@city.tokorozawa.saitama.jp）でご応募ください。

はつらつ野老（ところ）っ子

子どもたちに「心のふるさと」を

水村　周介さん（糀谷在住）

糀谷八幡（こうじやはちまん）湿地には、市内でも珍しい田んぼが約300坪あります。ここで、今年もうるち米200kgともち米120kgが三ヶ島小学校5年生の児童と糀谷八幡湿地保存会の皆さんにより収穫されました。

今回は、この湿地を維持管理されている糀谷八幡湿地保存会会長の水村周介さんをご紹介します。

糀谷八幡湿地では、昭和の時代にも米作りが行われていましたが、平成に入り一部は資材置き場になり、建築廃材の不法投棄も目立ってきました。また、2m以上の葦（よし）が生い茂り、「子どものころカエルを捕まえたり、木登りをしたりして過ごした里山の風景とは、がらりと様子が変わった」と水村さんは過去を振り返り話してくれました。

この荒れた湿地にもまだわずかながらカエルなどが生息していました。そこで平成14年から保存会が、かつての里山に戻そうと活動を始めました。葦などをすべて一気に切ってしまうと環境が変わり、生態系が崩れてしまうので、少しずつ環境に配慮しながら手作業で行いました。そのかいがあって、「生態系を崩すことなく、米作りが出来るまでの湿地に戻せた」と話してくれました。「これも私たちが、子どものころ遊んだ『心のふるさと』である思い出の場所を子どもたちの未来に残したいとの思いがあったから出来た」と熱く語ってくれました。

4年目の米作りは、猛暑の影響で草刈りの回数が増えたり、収穫日が早まったりとたいへんでしたが、「子どもたちはここに来ると目が輝きます。その輝く目が見たくて、皆で協力し作業したので無事に収穫出来た」と笑顔で話してくれました。

保存会の皆さんの活動により糀谷八幡湿地では、初夏には蛍も飛び交い、いろいろな生き物も住み始め、少しずつ昭和30年ごろの里山に戻ってきました。

今では、ここを散歩で訪れ、ベンチでお弁当を食べて行かれる方も増えました。皆さんもぜひ1度足を運んでみてください。

▲昭和20年代後半ごろの機械で脱穀作業を行う保存会の皆さん

歴史再発見 ところざわの文化財㉔

川越芋（かわごえいも）発祥の地　～南永井さつまいも始作地之碑～

かつて所沢地域は、麦作りとともにさつまいもの栽培が盛んに行われていました。武蔵野新田の土壌は、火山灰土の軽土で、生産性も高くはありませんでしたが、さつまいもは土地を選ばず、土質が軽いやせた土地を好む性質があり、また味も良いものができました。このため秋作の麦、夏作のさつまいもといって両者はひとつの畑で輪作されていました。

市内における栽培起源は、江戸時代中期の寛延4年（1751）に南永井の吉田家がその始まりとされ、同家の敷地には「さつまいも始作地之碑」が建てられています。また「弥右衛門覚書（やうえもんおぼえがき）」という古文書も残されています。市の指定文化財にもなっているその覚書には、当時の南永井村の名主を勤めた吉田弥右衛門・弥左衛門親子によるさつまいも栽培開始についての貴重な記事が収められています。

吉田家によって始められた栽培は、その後周辺の村々にも伝わり、集散地であった城下町・川越の名をとって「川越芋」と呼ばれるようになり、全国へ知られるようになりました。

▲さつまいも始作地之碑

問い合わせ　文化財保護課（☎2998-9253・FAX2998-9128）

誰でもエッセイ

◆テーマ「発表の場」

高齢者演芸大会

若松町・谷口　ウラ子

77歳から踊りを習い始め6年がたちました。今年の7月にミューズで開催された「所沢市高齢者演芸大会」に出演し「つれ舞道中」を無事に踊り終えることができました。

これも先生の熱心なご指導と踊り仲間がいろいろ協力してくれたおかげだからと心から感謝しています。

▶「所沢市高齢者演芸大会」での谷口さん（左）と若山静江先生／写真は、ご本人投稿

フラダンスに魅せられて

くすのき台・関　さかえ

定年退職後の生きがいを求めて、フラダンスを習い始めました。基本練習、腰の揺らし方とやってみると本当に大変でした。

しかし、仲間と楽しく練習に汗を流すうちに、どうにか6曲踊れるようになり楽しくなりました。

発表の場では、美しいドレスにレイや髪飾りを身に付け、見ている人が何を踊っているか理解してもらうために詩を読み上げ、3曲踊り終えました。今では、年に1回の舞台発表が私の生きがいとなっています。

せっかくの発表の場

松郷・石原　晃子

保育園の運動会に行ってきました。2歳になったばかりの孫娘は満面の笑みで迎えてくれました。

アンパンマンの曲に合わせて、黒いマントをひるがえし、ブロックを崩し、箱の上を渡り、ママの待っているゴールへ…と、ここまでは良かったのですが、体操になったら抱っこをせがみ離れません。残念！子どもはママが一番好き、私も昔をふと思い出しました。

愛ぎょう者のチビさんは、歌ったり、踊ったりといつも私たちを笑わせ楽しませてくれます。

今度、遊びに来たときは、アンパンマン体操をリクエストすることにします。

せっかくの発表の場でしたが、良い思い出になりました。大きくなったら、話してあげることが、また一つ増えました。